

(様式1)

一般社団法人 日本電機工業会 指定用紙	
整理番号	
ソフトウェア以外の場合	<input checked="" type="checkbox"/>
ソフトウェアである場合	<input type="checkbox"/>

下記の黄色い枠にご入力ください

中小企業等経営強化法の経営力向上設備に係る生産性向上要件証明書

当該設備の概要	減価償却資産の種類	機械及び装置	(選択して下さい)	機械及び装置	<p>ドロップダウンメニューより該当項目を選択してください。</p> <p>上で選んだ項目により、自動的に表示されます。 ※表示に当てはまらない場合は事務局へご連絡ください。</p> <p>本社名及び事業所名を記載してください。</p>
	設備の種類又は細目	電気業用設備	(自動表示されます)	電気業用設備	
	設備の名称	パワーコンディショナ		パワーコンディショナ	
	設備型式	ABC〇〇〇		ABC〇〇〇	
	本社名・事業所名	株式会社日本電機工業会・東京営業所		株式会社日本電機工業会・東京営業所	

該当要件	一定期間（注）内に販売開始された製品であるか	1. 該当	2. 非該当	(選択して下さい)	該当
	「生産性向上」（旧モデル比生産性年1%向上）に該当するか (※)当該設備がソフトウェアである場合、または比較すべき旧モデルが全く無い新製品の 場合には、記載不要。	1. 該当	2. 非該当	(選択して下さい)	該当
	該当要件への該当	1. 該当	2. 非該当	(選択して下さい)	該当

(注)一定期間は、機械装置：10年、工具：5年、器具・備品：6年、建物附属設備：1.4年、ソフトウェア：5年とする。

どの該当要件にも「1. 該当」にチェックが入る場合に限り、
該当要件への当否は「1. 該当」にチェックが入ります。

<p>「該当要件欄」に記載されている事項について確認し、該当要件を満たしていることを証明します。</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>〒102-0082 東京都千代田区一番町17-4</p> <p>一般社団法人 日本電機工業会</p> <p>代表理事・専務理事 海老塚 清</p>	当該設備が上記該当要件を満たすものであることを証明します。	日付 (※印刷)	平成29年4月1日	
	製造事業者等の名称	株式会社〇〇製作所	名称	株式会社〇〇製作所
	製造事業者等の所在地	東京都千代田区〇-〇-〇	所在地	東京都千代田区〇-〇-〇
	代表者氏名	製造事業部 部長 〇〇 太郎 印	代表者役職	製造事業部 部長
			代表者名	〇〇 太郎
	担当者氏名	◎◎ 一郎	担当者氏名	◎◎ 一郎
	所 属	営業部	所 属	営業部
	担当者連絡先 (電話番号)	03-△△△△-□□□□	電話番号	03-△△△△-□□□□

変更事項 (※)	変更前 (都道府県名・市町村名)	変更後 (都道府県名・市町村名)	申請時は記入不要です

(注) 経営力向上計画の認定申請書の記載から変更が生じた場合、設備取得事業者が変更後の設備情報を記載。

(注) 本証明書は、中小企業等経営強化法第13条第4項に基づく経営力向上設備等であって、中小企業経営強化税制及び地方税法附則第15条第4項に規定される国税徴収額の税額控除の特例措置の対象設備の要件のうち、生産性向上に係る要件（一定期間内に販売、「生産性向上」の要件）を満たしていることを証明するものです。これら税制の適用を受けるためには、さらに、中小企業等経営強化法第13条第1項に基づき経営力向上計画の認定を受けること、経営力向上設備等に該当すること、当該設備の価額が身体等設備額110万円を超えず、平成29年1月1日までに取得すること等の要件を満たす必要があります。詳しくは中小企業庁経営強化法のホームページをご参照ください。

<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/kyoka/index.html>

(様式2)

【チェックリスト】

申請対象種目確認 太陽光発電、風力発電、燃料電池の場合、様式1「減価償却資産の種類(セル-010)」が「機械及び装置」、「建物附属設備」のどちらに該当するかを現行のHPなどで確認する。 種目確認の目安として設備容量を記入する。	設備メーカー(製造事業者) 記入欄	証明書 チェック欄	設備の種類 又は種目 機械及び装置	設備の種類又は種目 (太陽光発電、風力発電、燃料電池以外の場合は記入不要です)	機械及び装置	太陽光発電、風力発電、燃料電池以外の場合は記載不要です。
	設備容量 : 1500 kW					
販売開始条件の確認 当該設備の販売開始日が、取得日から一定期間に属する年度開始の日以後であること。	1. 該当 2. 非該当		(選択して下さい)	該当		
	①販売開始年月(※1) : 2015年3月 ②取得等をする年月 : 2017年4月 ※1「定期償還(※2)」の要件内であること 参考: 上記の①-②= 2年1ヶ月		販売開始年月(※1) (※2: 2017年1月) 取得等をする年月(※2) (※2: 2017年3月)	2015年3月 2017年4月		
該当 生産性向上に該当するか 当該設備の一代前モデルと比較して年平均1%以上の生産性向上を達成している。 (※3) 比較すべき旧モデルが全くない場合には、記載不要。	1. 該当 2. 非該当		(選択して下さい)	該当		
	※1 比較指標 (※2)以下1~4までのいずれかの指標で比較。 1. 生産効率 【 - 】		※1 比較指標の例「最大出力の向上」、「全損失低減」など	1. 生産効率 (左の欄は選択、右の欄には指標内容を記載して下さい)		
	2. 精度 【 - 】		2. 精度 (左の欄は選択、右の欄には指標内容を記載して下さい)			
	3. エネルギー効率 【 変換効率 】		3. エネルギー効率 (左の欄は選択、右の欄には指標内容を記載して下さい)	該当	変換効率	
	4. その他 【 - 】		4. その他 (左の欄は選択、右の欄には指標内容を記載して下さい)			
	※上記1~4で選択記載した指標内容が、一代前モデルに比べ「顕著しているか」「向上しているか」(右の欄より選択して下さい)		向上			
	<指標数値> ○一代前モデル : (90) (販売開始年月) (2013年3月)		(※左の欄は数値のみ) 90.0	単位 (%)		
	○当該モデル : (92.2)		(※左の欄は数値のみ) 92.2	単位 (%)		
	<生産性向上> 年平均 : 1.2 %		年平均 (※右の欄は数値のみ) 1.2			
	該当要件への当否	1. 該当 2. 非該当		(選択して下さい)	該当	

(自動計算)

$$\frac{(92.2 - 90.0)}{90.0} \div 2 \text{ 年} \times 100 = 1.2 \%$$

(※1) 販売開始年度はカテゴリや仕様等で確認できる、合理的な時期とすること。
なお、年度はその年の1月1日から12月31日までの期間をいう。
(※2) 一定期間は、機械装置: 10年以内、工具: 5年以内、器具備品: 6年以内、建物附属設備: 14年以内
(※3) 新製品であっても、旧製品の設備がある場合には比較すること。
比較する装置が全く無い場合は、類似品が全くないことを事業経過等から明確に証明すること。
比較指標がなくても、生産性等の仕様を示す資料は提出すること。